● 代掻き（しろかき） ●

しろかきとは、水の入った田の土をかき混ぜ土の塊を細かく砕き、均一にならす作業。しろかきは通常、田に水を十分入れ、3 回行うのが普通である。田面に散布した肥料を混和するとともに、表面の土を柔らかくして田面を平らにし、また水田の漏水を抑える効果がある。牛馬を使う場合は、マンガ（馬鍬）を引かせ行う。人力の場合は、万能や平鍬を利用した。（使用する農具：馬鍬、平鍬、万能）

■馬鍬（マンガ）

水田で、牛馬に引かせて、田植え前の水の張った田の土を細かく砕き平らに均す代掻きに使う。この写真のものに、牛馬に引かせるための綱をかけることで効率よく代掻きができるようになる。

● その他 春に使われる農具 ●

■踏鍬（ふみぐわ）

長い柄を体の中央にして突き押すかたちに持ち、足を掛けて踏み込む。鍬の一種。主に関東地方では、麦畑などの畑作の耕起のほか、畝作り、稲作でも利用された。大型ものが多く、中村家のものは柄の部分だけで 178cm あり、主に男性が用いた道具である。

■田舟（たぶね）

湿田で、土入れの土、田植えの苗、刈り取った稲を入れて運ぶような舟。一年中稲作の中で用いられる。乾田化が進められる近代以前は、各地で利用されていた。